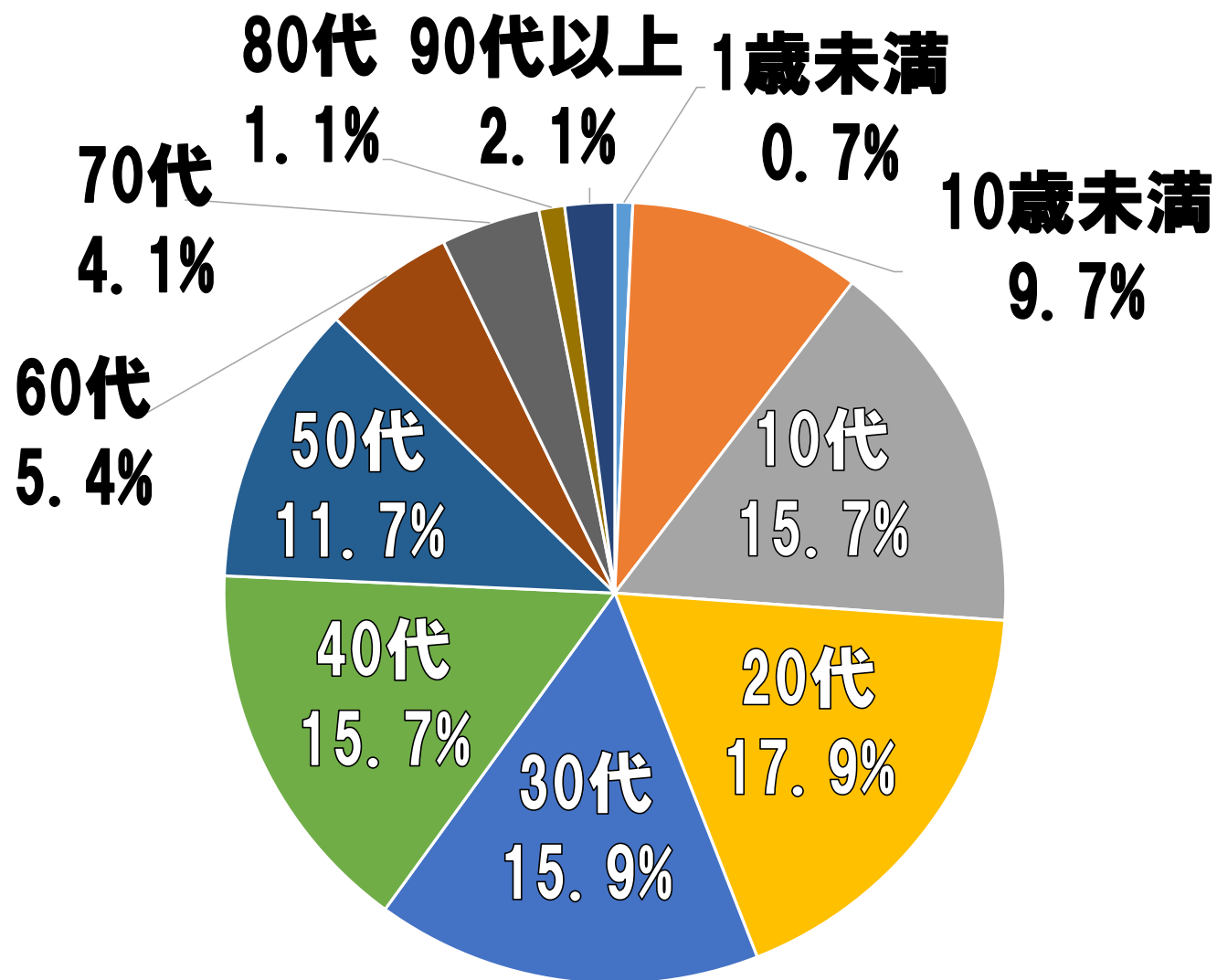


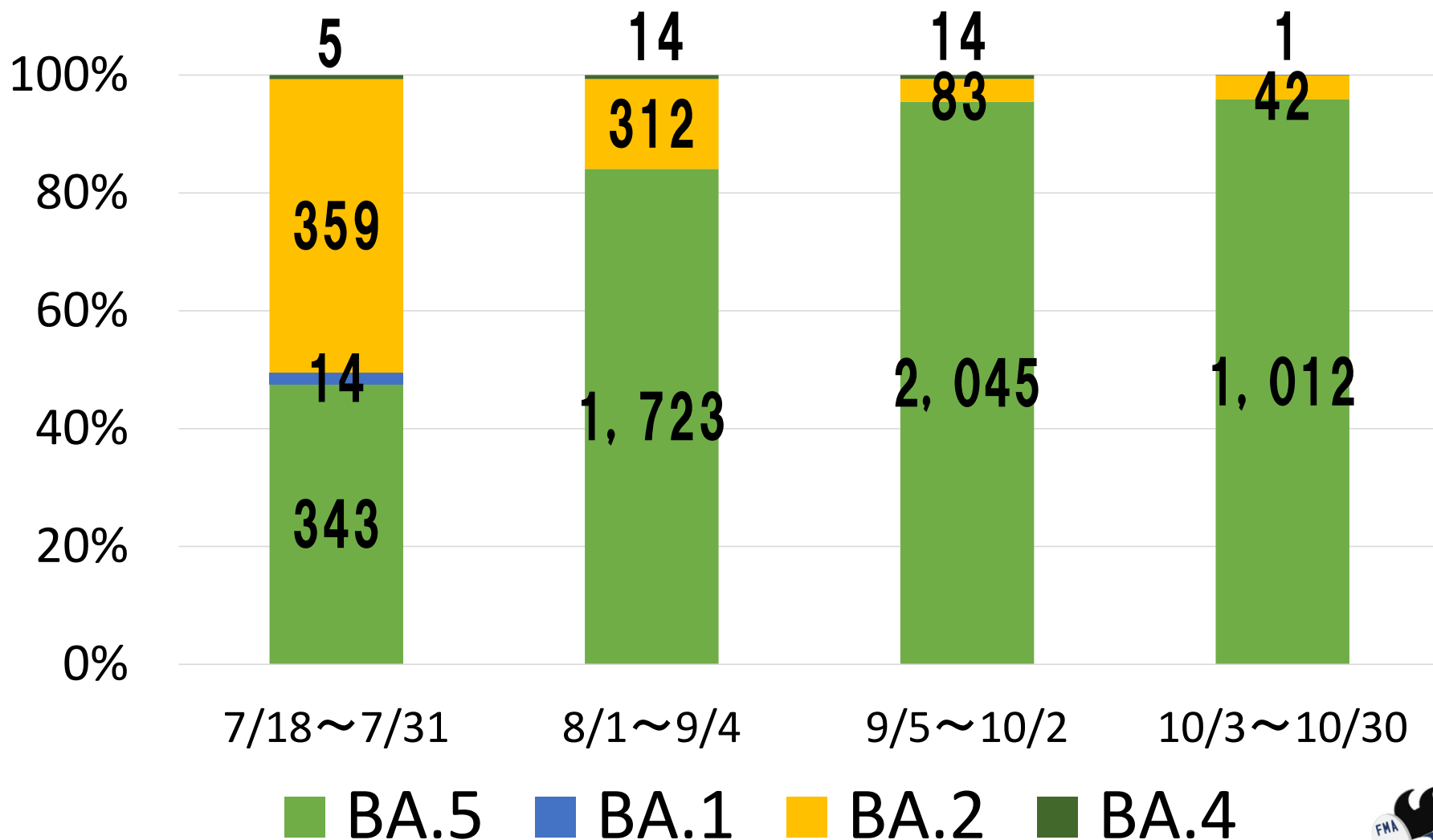
# 福岡市での直近 1 週間の年代別感染状況



出典：福岡市ホームページ



# 福岡県内におけるオミクロン株発生状況の内訳



福岡県新型コロナウイルス感染症対策本部 会議資料を元に作成



# 接種対象者

〈オミクロン株対応2価ワクチンの種類〉

	1・2回目接種対象者	3回目以降の接種対象者	
		12歳以上	18歳以上
ファイザー社ワクチン 【BA.1対応型／BA.4-5対応型】	×（使用不可）	○	○
モデルナ社ワクチン 【BA.1対応型】	×（使用不可）	×	○

(※) 2022年10月時点では、オミクロン株対応2価ワクチンは、11歳以下は接種対象となりません。



一般社団法人 福岡市医師会

## 従来のワクチンの効果について

オミクロン株に対する初回（1回目・2回目）接種による感染・発症・入院予防効果は、デルタ株と比較して低下するものの、3回目接種により一時的に回復。

## 2価ワクチン接種の必要性について

異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫も、より多様なコロナウイルスに反応する。そのため、今後の変異株に対して有効である可能性がより高いことが期待されている。



# マイナ保険証のメリット・デメリット



対象	メリット	デメリット
患者・ 一般の方	受付の簡素化 (顔認証で受付自動化)	マイナカードの取得手続きが必要 (取得できない人の保険診療手続き上の懸念)
	健康管理の向上 (過去の薬剤情報や特定健診情報が 正確に把握できる)	マイナカードを健康保険証としての 利用手続きが必要
		現時点で全ての医療機関で利用できる わけではない
	窓口で限度額以上の医療費の 一時支払いが不要	紛失時に再発行の手間がかかる
	就職や転職、引っ越しの際の 切り替えが不要	個人情報取扱上の懸念
医療機関	受付作業の簡素化	システム導入の煩雑さと導入後の 運用コスト
	レセプト返戻作業の軽減化	導入義務化により保険診療継続難の 可能性
	医療情報のデジタル化	情報漏洩やサイバー攻撃の懸念
		令和4年11月10日



## マイナンバーカードの普及率

- 全国 約51.1% (約6,400万人／約1億2,500万人)
- 福岡 約51.8% (約264万人／約510万人) 令和4年10月31日時点

## 福岡県のオンライン資格確認可能医療機関の比率

- 顔認証付きカードリーダー申込率  
89.7% (9,605施設／10,711施設)
- 準備完了施設数  
39.3% (4,206施設／10,711施設)
- 運用開始施設数  
32.7% (3,507施設／10,711施設)

〔 病院 : 39.4%  
診療所・薬局他 : 32.4% 〕

令和4年10月31日時点



## 第8波への備え

出典：厚生労働省特設ウェブサイト

### 感染が拡大する前の接種をご検討ください



- ・ **新型コロナウイルスワクチンの接種**  
新型コロナウイルスワクチンの早期の接種をお願いします。
- ・ **インフルエンザワクチンの接種**  
65歳以上の方などの定期接種対象者で、  
接種を希望される方は早めの接種をお願いします。



### あわせて確認しておきましょう

- ・ **電話相談窓口などの連絡先**  
受診・相談センターなどお住まいの地域の相談窓口、「救急車利用マニュアル」の参照や#7119（救急要請相談）、#8000（こども医療相談）など

<福岡市新型コロナウイルス感染症相談ダイヤル>

電話番号：092-711-4126（24時間対応）



一般社団法人 福岡市医師会

## 第8波への備え

出典：厚生労働省特設ウェブサイト



**発熱などの体調不良時にそなえて、  
早めに購入しておきましょう**

- ・ **新型コロナ抗原定性検査キット**
- ・ **解熱鎮痛薬**

かかりつけ薬剤師・薬局にお気軽にご相談ください。

**国が承認した新型コロナ  
抗原定性検査キットを選びましょう**

「研究用」ではなく国が承認した「医療用」もしくは「一般用」のキットを使用してください。



医療用



一般用



一般社団法人 福岡市医師会